

滄桑の街・香港から(1)

香港到着

一九九七年四月一日、私たち家族は、歴史的な返還を目前に控えた香港啓徳空港に到着しました。主人の転勤に伴い、約二年の予定でホットな街・香港で暮らす事になったからです。

近いとはいえ、異国での生活ですので、親として小学三年生及び一年生の娘たちの健康面、安全面、環境面で気を配っていたものの、当事者たちは、まるで旅行にい

今井 七重

くかのようなので、転勤の話が出てから終始ご機嫌でその日を迎えました。

一番の懸念だった小学校の選択には三通りありました。現地校（広東語を主とする）、インターナショナル（英語を主とする）、及び日本人学校です。当初、せっかくの海外だからとインターナショナルも考えていたのですが、海外子女教育財団の方や実際海外にしている同世代のお子さんをもっている方々に相談した結果、日



本人学校に決めました。二人の娘がまだ、小学校中低学年であり、日本語が確立していないこと、二年間という時期が英語をマスターするには短かすぎる事、仮に英語をマスターしたとしても、日本に帰れば、すぐに忘れるし、マスターした英語は、あくまで小学生レベルでの話し言葉に過ぎない事、日本語をある程度確立してからの方が、第二言語の習得は効率的である事、子どもたちの第一言語を日本語とするなら、今の時期の日本語はとても重要である事等勘案したからです。英語に固執するより言葉に不安のない環境の中で、のびのび生活しながら日本とは違う様々の面を、肌で感じるの方が重要だと考えました。

香港には既に三十年以上の伝統ある香港日本人学校（在香港島）がありますが、年々増加する生徒数に対応できず、ここにきて限界（一学年六、七クラスもあります）、八年前から新設校の建設を考えはじめ、今年度よりやく香港日本人学校タイポール校開校の運びとなりました。吐露灣を臨む緑豊かな広大な敷地、とても小学校と

は思えない雰囲気をもった贅沢な建物もさることながら、新設校の一番の魅力は、国際学級（英語による外国のカリキュラムに基づいたクラス）を併設していることです。一国二制度の香港らしく、一校二学級制です。こちらは九月開校ですが、各学年一クラスから二クラスの国際学級を予定しています。日本語学級の生徒たちも早朝、休み時間、昼食、清掃等を一緒に過ごす事で、異文化に少しでも自然な形で触れる事ができます。又、夏休み以降、日本語学級で図工のイマージョン教育も行われる事になっています。ともすれば、これだけ多くの日本人がいては、ついつい居心地のよい日本人とだけの付き合いだけで終わってしまいがちな欠点を、補ってくれます。言葉の習得よりも、一緒に過ごす事で、異文化を自分の目で見て、肌で感じて、そしてその違いを拒絶するのではなく、認め理解できるように努めてくれればどんなにいいかと迷わずタイポール校を希望し、入学・転入が許可されました。

こんなにすばらしい環境なのだから、もしかすると人

気殺到で入れないかもしれないと思っていました。タ
イポー校の地理的条件が嫌われ、各学年二十五名から三
十名の二クラス編成のスタートとなりました。ここは、
九龍半島側の新界といわれるかなり辺ぴなところにあり
ます。どこへ行くにも（海でも、日常の買い物でも）三
十分もかかれば、遠いという香港において、三十分強の
通学は、問題外というわけです。その上、スクールバス
ストップが私たちの住んでいる香港島では一か所しか
ないため、その近辺に住んでいない人は、やはり断念せざる
をえない状況です。なにも知らず、ただただその学校の
魅力でタイポー校に決めた私たちは、かなりの変わり
者（勇気がある）のようです。事実、一か所しかないバ
スストップまでは徒歩圏内ではないので、毎日車で子ど
もたちをそこまで送迎しています。

こちらの学校の子どもたちは、ほとんどスクールバス
で通っています。現地の人たちもそうです。（ちなみ
に、現地校は生徒数と限られた場所の関係で、午前クラ
スと午後クラスの二部制が多く、一日二回スクールバス

による小規模な渋滞が見られます。）坂も多いので子ど
もたちのバス酔いを心配していましたが、問題ありませ
んでした。同じバス停の利用者が一台のバスに乗るた
め、学年を超えてのお友だちができ、三十分のバスドラ
イブをとっても楽しんでいます。子どもたちは、快調なス
タートをきりました。

私自身は、香港滞在二年という限られた期間ですの
で、できるだけ、色々な事を経験したいと考えました。

七時三十分の子どもをバス停まで送り届け、お迎えの三
時四十分迄は、まるっきり自分の時間です。日本からの
来客に備え、ツアーコンダクターのように現地を知り尽
くそうと、ガイドブック片手に観光名所を巡り、一人ト
ラム（路面電車）の始発から終点までのり、変わりゆく
風景を楽しんだりしています。はやりのフットマッサー
ジ・足踏みマッサージにもトライしました。

でも今一番の興味は、街市がしとよばれるマーケットで
す。香港には、日系デパートが多く、日本のものは何で
も、五割増し位で手に入ります。買い物に不自由はない

のですが、ビルの中、ときには平屋の建物の中に魚屋、八百屋、肉屋、乾物屋、漬物屋、豆腐屋、等が所狭しと並んでいて、安くて新鮮、パックではなく量り売りをする街市が、いかにも香港らしくて好きです。

しかし、難点は、臭いです。魚や肉、独特の香辛料等がミックスした形容しがたい強烈な臭いが、かなり離れたところからでもわかります。まず、それに耐えながら一歩足を踏み入れますと、巨大な肉の固まりが、天井から、いくつもつるされた光景やブタの足に圧倒されまゝ。鶏が生きたまま、ぎゅうぎゅう詰めでかごに入れられ、ギャーギャー恨めしそうに泣いている横で、買い物客の選んだ鶏の頸動脈をスパッと切り、ゴミバケツに投げ込んでいる光景には肝をつぶします。魚はびちびち跳ねていて、盛った籠から飛び出し、地面へ勢いよくジャンプしています。ある時、籠の中でもじゃもじゃ動くものが出て、何かしらとしゃがみこんで目をこらした途端、ひっくり返りそうになったことがあります。食用ガエルが山のようにいたのです。エビを買った時などは、

自宅に帰るまでの間、ビニール袋の中でゴソゴソ動いて、その度に手からおっこしそになりまゝです。もう大丈夫だろうと調理しかかった途端、飛び跳ねられ心臓が止まりそうになった事もあります。びっくりすることの連続で、かつ会話は広東語が主流のため、できない私としては辛いものがありますが、現地の人たちと交流できる場所の一つです。今後も多いに利用したいと思っています。

七月一日より香港は、中国に返還されました。政治的には色々あるのですが、日常生活には全く変わりがなく、まるでそういう事実があったことすら忘れる日々です。

これからも、一主婦の見た香港の様子を綴っていきたいと思います。

(元幼稚園児の母)